

# 群馬県の歴史・文化

古墳～平安時代に関東地方で栄えた文化

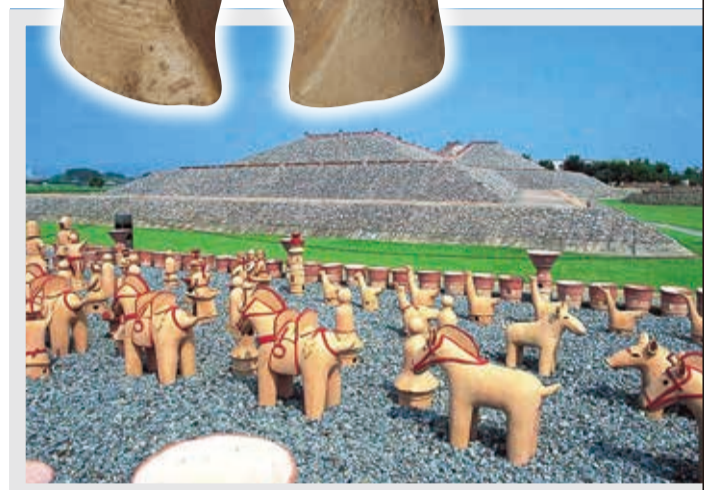
## 東国文化

群馬の遺跡は今から2～3万年前、旧石器時代の「岩宿遺跡」に始まります。3世紀後半～7世紀にかけて古墳時代には関東は東国と呼ばれ、群馬は大事な拠点でした。大和政権のある近畿と未開拓の東北を結ぶ陸路の通過点であり、当時貴重な軍事力だった”馬匹生産”<sup>ばひつ</sup>を積極的に行っていたからです。

そのため4～6世紀にかけて豪族らの古墳が群馬に沢山作られました。特に西部エリアに多いのは、石の生産が盛んだったことが要因。多くの出土品や埋葬品から当時の「東国文化」を知ることができます。



ハート形土偶



八幡塚古墳

## かかあ天下

古くから絹産業の盛んな上州（群馬県）では、女性が養蚕・製糸・織物で家計を支え、近代になると、製糸工女や織手としてますます活躍しました。

夫(男)たちは、「おれのかかあは天下一」と呼び、これが「かかあ天下」として上州名物になるとともに、現代では内に外に活躍する女性像の代名詞ともなっています。「かかあ」たちの夢や情熱が詰まった養蚕の家々や織物の工場を訪ねることで、家計を支え日本経済を支えた、まさに天下一の上州の女性たちの姿が見えてくるのです。



## 上毛かるた

群馬の風土や歴史、産業、人物などを知り、郷土への愛情と誇りを持ってもらうため1947(昭和22)年に生まれました。

発行から半世紀以上が経った今、上毛かるたは県民の誇りとなっています。

## 上三原田歌舞伎舞台

渋川市にある「上三原田歌舞伎舞台」は、壁を倒して舞台を広げたり、回転部を回して舞台を回転させたりと、全国にも例のない珍しい仕掛けのある歌舞伎舞台です。歌舞伎の上演には、80人以上の裏方が操作を行い仕掛けを動かします。その操作技術とともに国の重要有形民俗文化財に指定されています。

## 群馬交響楽団

1945(昭和20)年に創設された「高崎市民オーケストラ」を前身とし、「群馬フィルハーモニーオーケストラ」と改称後、1947(昭和22)年に地方楽団で初のプロとなり、1963(昭和38)年に現在の名称である「群馬交響楽団」と改称されました。地元の人やクラシック音楽愛好家からは、「群響」<sup>ぐんきょう</sup>の愛称で親しまれています。

